

中間報告書

2024年6月1日～2024年11月30日

第44期

株主の皆様へ

平素は格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2024年11月30日をもって、第44期中間連結会計期間(2024年6月1日から2024年11月30日まで)が終了いたしましたので、ここに営業の概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長兼COO 長野 庄吾

2025年2月

営業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、訪日外国人の増加によるインバウンド消費の拡大や名目賃金の増加・雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復傾向となっておりますが、世界的な資源価格の高騰、円安による輸入物価の上昇、人件費の増加などに伴い商品価格は継続して値上がり傾向にあり、消費マインドは低調で依然として先行き不透明な状況が続くものと思われます。

このような状況の下、当社グループはローリング方式による新たな中期経営計画である「IK WAY to 2027」を策定し、新たな飛躍のステージと位置付け、その飛躍の主力商品となる韓国コスメの拡販にダイレクトマーケティング事業、セールスマーケティング事業の両軸で取り組んでおり、特にセールスマーケティング事業の店舗ルートにおいて大きな成果となっています。また、ダイレクトマーケティング事業ではEC販路での売上拡大に注力し、セールスマーケティング事業では生協ルートのほか、海外事業の再チャレンジに注力しております。

なお、2024年6月28日付で「ITソリューション事業」を営んでいた連結子会社の株式全てを譲渡いたしましたことから当中間連結の範囲から除外しており、「ITソリューション事業」を報告セグメントから除外しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高7,262百万円(前年同期比85%増)、営業利益103百万円(前年同期比57.8%増)、経常利益99百万円(前年同期比53.4%増)、親会社株主に帰属する中間純利益130百万円(前年同期は4百万円の親会社株主に帰属する中間純損失)となりました。

各セグメントの経営成績は次のとおりです。

<ダイレクトマーケティング事業>

TVショッピングにおいては、引き続き媒体効率を意識した放映を行いつつ、テストマーケティングで結果の良かった商品を中心に放映を行いましたことから、TVショッピングで売上高は前年同期比60.9%増収いたしました。韓国コスメのSHOPルートでは、当中間連結会計期間末までの店舗数は4店舗(前年同期は9店舗)となりましたが、「hince」等の売上好調もあり、前年同期比4.1%増収いたしました。

これらにより、当事業の売上高は1,985百万円(前年同期比24.7%増)となり、営業利益は17百万円(前年同期比13.3%減)となりました。

<セールスマーケティング事業>

売上高は、店舗ルートにおいて韓国コスメの売上拡販により前年同期と比較して30.3%増収いたしました。生協ルートでは、雑貨品及び食品が微増したものの、化粧品が減少したことから、同ルートの前年同期比は1.1%の増収にとどまりました。また、通販ルートでは前年同期と比較して5.2%増収いたしました。

これらにより当事業の売上高は5,275百万円(前年同期比8.5%増)となり、営業利益は407百万円(前年同期比13.7%増)となりました。

セグメント情報等

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間連結 損益計算書計上額 (注2)
	ダイレクト マーケティング事業	セールス マーケティング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,985,789	5,275,181	7,260,971	1,450	7,262,421
セグメント間の内部売上高、又は振替高	248,487	146,760	395,248	△395,248	—
計	2,234,277	5,421,942	7,656,219	△393,798	7,262,421
セグメント利益	17,434	407,160	424,594	△321,535	103,059

(注) 1. セグメント利益の調整額△321,535千円は、主に各報告セグメントに配分していない持株会社運営に係る全社費用であります。

2. セグメント利益又は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 従来、報告セグメントとして記載しておりました「ITソリューション事業」については、アルファコム株式会社の全株式を譲渡したことに伴い、当中間連結会計期間より除外しております。

(単位：千円)

資産の部

流動資産：**5,605,491**
(前期末比：581,664増)

固定資産：**864,978**
(前期末比：118,407減)

負債・純資産の部

流動負債：**3,024,914**
(前期末比：542,572増)

固定負債：**1,237,798**
(前期末比：116,826減)

純資産：**2,207,756**
(全期末比：37,511増)

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ581百万円増加しました。

主な流動資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が603百万円、「商品及び製品」が337百万円、それぞれ増加したと、「現金及び預金」が415百万円減少したことによります。

当中間連結会計期間末の固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ118百万円減少しました。

主な固定資産の変動は、「無形固定資産」が71百万円、「投資その他の資産」が49百万円、それぞれ減少したことによります。

この結果、当中間連結会計期間末の総資産は6,470百万円となり、前連結会計年度末に比べ463百万円増加しました。

(負債)

当中間連結会計期間末の流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ542百万円増加しました。

主な流動負債の変動は、「買掛金」が334百万円、「短期借入金」が400百万円、それぞれ増加したと、「未払金」が65百万円、「その他」が57百万円それぞれ減少したことによります。

当中間連結会計期間末の固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ116百万円減少しました。

主な固定負債の変動は、「長期借入金」が100百万円減少したことによります。

この結果、当中間連結会計期間末の負債は4,262百万円となり、前連結会計年度末に比べ425百万円増加しました。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産につきましては2,207百万円となり、前連結会計年度末に比べ37百万円増加しました。主な純資産の変動は、「利益剰余金」が88百万円増加したことと、「自己株式」の増加により61百万円減少したことによります。

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	前中間連結会計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年11月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年11月30日)
売上高	6,695,663	7,262,421
売上総利益	2,780,706	3,010,069
営業利益	65,323	103,059
営業利益率	0.97%	1.42%
経常利益	64,586	99,097
経常利益率	0.96%	1.36%
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△4,133	130,606

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

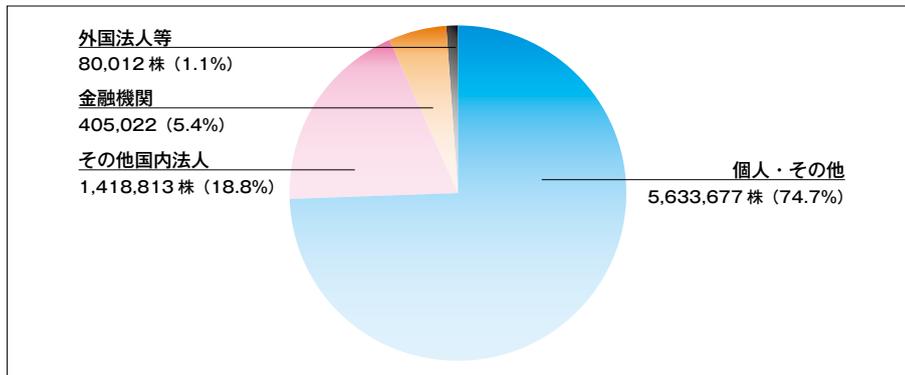
科目	前中間連結会計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年11月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年11月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△4,133	130,606
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△6,627	6,629
その他の包括利益合計	△6,627	6,629
中間包括利益	△10,760	137,236
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△10,760	137,236

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(1) 株式に関する事項

- ① 発行可能株式数 31,065,600 株
- ② 発行済み株式数 8,308,000 株 (自己株式 770,476 株を含む)
- ③ 株主数 11,058 名

所有者別状況



(注) 自己株式 (770,476 株) を控除しております。

(2) 大株主に関する事項

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
株式会社AM	1,210,000	16.05
野村證券株式会社	187,400	2.48
飯田裕	167,500	2.22
アイケイ取引先持株会	159,300	2.11
飯田清子	133,100	1.76
日本マイスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	128,400	1.70
飯田悠起	115,400	1.53
鬼頭洋介	111,700	1.48
山中亜子	110,700	1.46
栗田和代	92,200	1.22

(注) 1. 持株比率は自己株式 (770,476 株) を控除して計算しております。
2. 持株数は持株名簿に基づいて記載しております。

■ダイレクトマーケティング事業

韓国コスメを扱うSHOPルートは、取扱いブランド数、取扱いアイテム数を増やしながら好調に推移いたしました。今後もブランド毎の戦略を進め、国内での認知とファンづくりを広げてまいります。

一方、TVルートは、引き続き媒体効率を意識しながら、自社ECサイトやクラウドファンディングを活用したテストマーケティングで結果の良かった商品を中心に放映を行ってまいりました。

またECルートでは、自社ECサイトやクラウドファンディングに加え、ECモールでの拡販に注力しEC向け新商品の開発・販売に取り組んでまいりました。今後もEC比率向上に向け、商品の拡販に取り組んでまいります。



◆AROMATICA

「地球も活かして肌も活かそう (SAVE THE SKIN, SAVE THE PLANET)」をブランド哲学として、持続可能なビューティを実践するクリーン&ヴィーガンビューティブランド。それが「AROMATICA」です。原料と香りが持つ安全で効果的な有効成分を伝達できるように、独自の研究所とコスモス認定工場で持続的な研究開発に努めています。

また、廃プラスチックと廃ガラスをリサイクルしたPCR容器の開発を皮切りに、全製品の98%を100%リサイクル透明ペット容器と、90%リサイクルガラス容器に転換し、環境配慮に努めています。

◆金賞の一膳

シリーズ累計67万食突破の健康米ご飯パック

金賞健康米(北海道産ゆめぴりか)の白米と、雑穀をブレンドしたご飯パックです。お米本来のおいしさはそのままに、日々の食事から手軽に栄養を摂れることを目指し、調理が面倒な雑穀や玄米のご飯を、電子レンジでさっとお召しいただけるように、ご飯パックの形にこだわりました。

毎日の食卓にはもちろん、忙しい朝やお弁当、ちょっと小腹がすいた時にもおすすめです。ふっくらもちもちとした食感と、香りや旨味をお楽しみいただけます。



■ セールスマーケティング事業

店舗ルートは、韓国コスメの拡販に加え、新たに雑貨品の商品展開も開始し好調に推移いたしました。

生協・通販ルートでは、商品を拡充するため、販路限定商品の開発・販売や、著名人とコラボした商品の開発やタイアップ番組の放映を行ってまいりました。

今後も収益性の高い商品カテゴリーへの集中や、開発力を生かした新商品の開発、大手通販・小売企業への商品提案を行い、セールスマーケティング事業全体の強化に取り組んでまいります。



◆ パーフェクトワン

モイスタージェルプラス

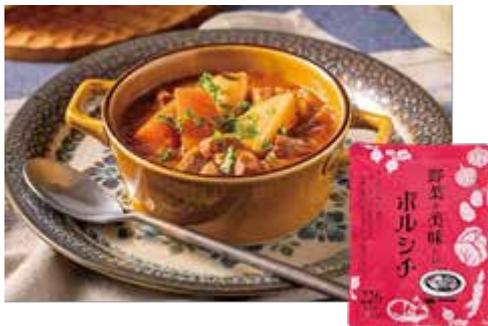
新日本製薬株式会社との共同開発により実現した生活協同組合限定商品です。

全国の生活協同組合の組合員様にアンケートを実施し、お客様のお悩みの1位「乾燥」にアプローチし、さらに生協組合員様が好まれる成分「ヒアルロン酸」「コエンザイムQ10」「スクワラン」を追加配合した、1品で化粧水・美容液・乳液・クリーム・パック・化粧下地の6役すべてをこなすオールインワン美容液ジェルです。

◆ 野菜が美味しいボルシチ

発売1年で65,000食突破した、おうちで本格的な味わいを楽しめるレトルト食品です。

肉・野菜・ビーツなどを長時間煮込んで作られる東ヨーロッパの伝統料理であるボルシチ。たっぷりの野菜と牛肉をじっくり柔らかく煮込み、素材の旨味が溶け出したコク深い味わいを、温めるだけで手軽にお楽しみいただけます。



会社の概要 (2024年11月30日現在)

商号 株式会社 I K ホールディングス (IK HOLDINGS Co.,Ltd.)
資本金 620,949 千円
代表者 飯田 裕
設立 1982 年 5 月
従業員数 30 名
連結従業員数 202 名

本社 〒 450-0002
名古屋市中村区名駅三丁目 26 番 8 号 KDX名古屋駅前ビル
TEL (052) 380-0260 (代表)
FAX (052) 856-3120
URL <https://www.ai-kei.co.jp>

東京支社 〒 104-0061
東京都中央区銀座一丁目 7 番 3 号 京橋三菱ビル 7 階
TEL (03) 5159-5355
FAX (03) 5159-5359

(本店) 〒 453-0809
名古屋市中村区上米野町四丁目 20 番地

役員 (2024年11月30日現在)
代表取締役会長兼 CEO 飯田 裕
代表取締役社長兼 COO 長野 庄吾
常務取締役 高橋 伸宜
取締役(常勤監査等委員) 山本 あつ美
取締役(監査等委員) 和田 圭介
取締役(監査等委員) 大庭 崇彦



株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月中に開催
剰余金の配当の基準日 期末配当：5月31日 中間配当：11月30日
証券コード 2722

上場金融商品取引所 東京証券取引所（スタンダード市場）
名古屋証券取引所（プレミア市場）

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711（通話料無料）
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法 当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。
<電子公告掲載ページアドレス> <https://www.ai-kei.co.jp/ir/koukoku>

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、单元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）に、お問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、当社の定款に基づき三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

